



FDとは？

FDとは『ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)』の略で、大学の授業改革のための組織的な取り組みのことをいいます。本学では、教員がおこなう授業について、学生のニーズに応じていくためにどう工夫ができるか、などを検討する『FD推進部会』を設置しています。



授業評価アンケートについて（2009年度）

このアンケートは、より質の高い教育を実現するため、授業について、学生の皆さんの声を聞くことを目的に行われています。寄せられた声は、より充実した授業の実現、さらには神戸外大の魅力を一層向上させるための貴重な資料となります。あらためて、ご協力いただいた学生、教員の皆さんにお礼を申し上げます。

2009年度アンケートの結果について、FD推進部会でとりまとめました概要をご報告いたします。

<授業評価アンケート概要>

この「授業評価アンケート」は大学の自己点検評価の一部として企画・実施したもので、今回で9回目となる。専任・非常勤の別を問わずほぼすべての授業（大学院と研究指導を除く）を対象としたが、教員と学生双方のご協力を得て約97%の科目で実施することができた。この「授業評価アンケート」は、大学教育の根幹である授業について、学生の側からの意見を集約するものであり、より効果的な授業を成立させるための基礎的な情報を提供するものである。

今年度は、従来の設問の文言にアンバランスがあるとの指摘を受けて、多くの項目で「5」の「強く思う」「非常によい」を、「思う」「よい」という幅の広い表現に修正したこともあって、全体に0.2～0.3ポイント分高い評価となった。従って、点数の増加がそのまま評価の向上をあらわすとは言えないものの、全体として少なくとも従来と同レベルの評価を受けていると判断して差し支えあるまい。

教員の授業内容についての評価では、「講義概要は役に立ちましたか」の設問の点数が低くなっている。これも従来の「講義概

要の内容に沿っていましたか」という文言を改めたことが関係ありそうで、質問がやや曖昧だったことや、カリキュラムの改正に伴うシラバスの煩雑化などが影響しているものと思われる。また、「授業内容が難しかったですか」「量は適切でしたか」という設問に対する回答は、どちらも、「3」「ちょうどよい」までには至らないが、ほぼ適正であると判断できる。ただし、一方では学生が背伸びすることを要求するような授業には、それなりの意義があることも理解されるべきだろう。

授業の進め方については、前回までと同じく、「黑板や映像資料の使い方」、「授業の組み立て方、時間配分」について、他の項目に比べると厳しい評価がされており、依然として教員に受講生の数やレベルに応じた柔軟な工夫が求められていると思われる。

設問15の「授業に対する総合評価」については、全体平均で4.2と、前回の4.01からわずかが高い評価となった。さらに、総合評価の平均2.0以下の低い点数の科目がなくなったことも評価してよい点であろう。

<FD部会長の感想>

FD部会の活動は、どこか今流行の「女性専用車両」に似ていると思うことがあります。目にあまる事態の発生をとりあえず防ぎ、当事者の苦情を手際よくさばくための「次善の策」ないしは「必要悪」であるという意味において、です。なるほど最初から女性と男性を切り離しておけば痴漢などの被害は減るかもしれませんが、個々の利用客が互いに助け合い注意し合おうとする「モラル」や不愉快ではない関係を築いていくための地道な「自主努力」は、逆にないがしろにされかねないのではないのでしょうか。

同じようなことを、FD活動にも感じてしまいます。おしきせの匿名アンケートで、そもそもどれほどの実質的な授業改善効果が期待できるのでしょうか。「意見はアンケートで聞いているから」と言って、学生たちの個別的な訴えに耳を貸さない先生もいると聞きます。また一方では、学生の口さがないコメント

に立腹したり失望したりした先生の側の苦情も、これまでたくさん聞かされてきました。学生と教員の相互のコミュニケーションを促すはずのアンケートが、逆に妙によそよそしい「距離」をつくる原因になっているのだとしたら、これほどの皮肉はありません。どこまでも学生と教員が自由に意見を述べ合える雰囲気、それぞれのクラスの中で生まれることが最も重要なはずで、「アンケート」や「座談会」は、そうしたコミュニケーションの単なる補助として以上の意味をもちえないものだと思います。

いずれにしても、まだまだ未熟なFD活動を真に有意義なものに育てあげていくためには、今後ともさまざまな工夫や努力が重ねられる必要があるだろうと、これは自戒と自嘲をこめて、そう考えています。しばらくは試行錯誤が続くと思いますが、これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（FD部会長 御輿哲也 教授）

2009年度授業評価アンケートの概略



- 実施時期 2009年6月29日(月)～7月3日(金)
- 対象学生 学部生・2年生
(科目等履修生、UNITYの他大学生も含む)
- 実施科目 613科目(ゼミ、登録者5人以下の科目除く全科目)
- 回答者数・回答率 のべ16019名 66.0%
- 回答者の属性

	英米	ロシア	中国	イスパ	国関	Ⅱ部	その他
学科	4713	1486	1816	1540	2855	3449	117
	語文	法経商	総文	国コミュ	その他		
コース	3649	2512	2000	202	3667		
	1年	2年	3年	4年	その他		
学年	5676	5246	3062	1807	108		

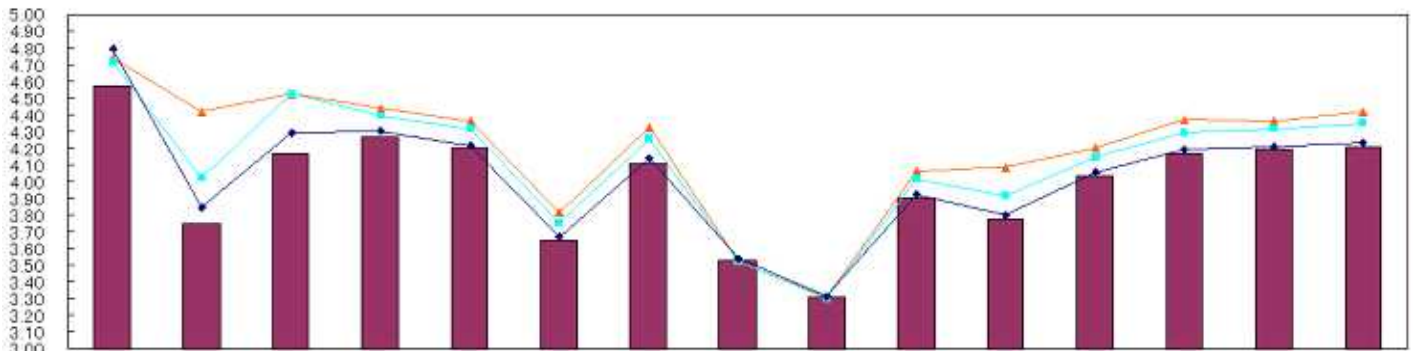


6. 回答内容

《選択肢》

- 5 そう思う／(Q1) 90%以上／(Q15) よい
- 4 ややそう思う／(Q1) 80%／(Q15) ややよい
- 3 ちょうどよい／(Q1) 70%／(Q15) どちらとも言えない
- 2 あまりそう思わない／(Q1) 50%／(Q15) あまりよくない
- 1 そう思わない／(Q1) 30%以下／(Q15) よくない
- 0 該当しない／(Q15) 判断できない

■	A = 全体	16,019件(100%)
—◆—	B = 問1で『4・5』を選択したもの	14,263件(89%)
—▲—	C = 問1で『4・5』を選択したもの	10,227件(64%)
—■—	D = 問1で『4・5』を選択したもの	12,810件(80%)



	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15
A	4.57	3.74	4.17	4.27	4.20	3.64	4.11	3.53	3.31	3.90	3.77	4.03	4.17	4.19	4.21
B	4.80	3.85	4.29	4.30	4.22	3.67	4.14	3.54	3.31	3.92	3.80	4.05	4.19	4.21	4.23
C	4.74	4.42	4.52	4.44	4.36	3.82	4.32	3.52	3.30	4.06	4.09	4.20	4.37	4.36	4.41
D	4.72	4.02	4.52	4.39	4.32	3.76	4.25	3.52	3.30	4.01	3.92	4.15	4.29	4.31	4.35

あなた自身の授業態度について			授業内容について						授業の進め方について			担当教員について		総合評価
問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15
この授業によく出席しましたか	自主的に意欲的な学習努力をしましたか	わかりやすい授業で、この授業の状況、また授業の進め方について、積極的に質問や発言をすることがありましたか	テキスト、配付資料は適切でしたか	理論的・実践的・専門的・応用的な内容が、わかりやすく説明されましたか	講義の要領が、シラバスに反映されていましたか	関心・理解を深めるための知識、情報、資料などが、適切に提供されましたか	授業内容は、難しかったですか	授業の量は、適切でしたか	効果的・合理的で、映像・資料などの使い方は、適切でしたか	なり、宿題、自習、参考文献の提示など、工夫がなされていましたか	授業の組み立て、時間配分は適切でしたか	たり、学問・コミュニケーションのスキルが、身につけられましたか	話し方、聞き取りやすかったですか	この授業に、対する総合評価を、教えてください

7. 自由意見

①英米学科

- もう少し会話や文法の授業を増やして欲しい。
- 専攻のあたりはずれが大きい。

②中国学科

- 語文コースの文法についての特講が少ない。
- 中国語が身につけてきたと実感できて嬉しい。
- 中国学科だと英語の勉強時間がもの足りない。

③イスパニア学科

- スペイン語文の授業と兼修がかぶっていることが多い。
- イスパニア学科も「教授選択制」(英米のような)にしてほしい。

④国際関係学科

- もっと英語の時間を増やして欲しい。外大なのに、英語が週に4コマしかないのは、つまらない。
- 総合文化コースの授業を国際関係学科の学生に対しても単位を認定してもらえないようにしてほしい。

⑤2部英米学科

- 夜間の人が昼の授業をとれる単位を増やしてほしい。
- 科学的(理系のような)分野の授業が少ないので増やしてほしい。

⑥法経商コース

- 火曜に法経商科目が集中しすぎる。分散してほしい。

・法経商の外交・行政コースを突然なくしたのはとまどった。
べつになくさなくてもいいと思う。

⑦カリキュラムについて

- ・学生へのカリキュラム、授業に関する説明が少なすぎる。
- ・一般常識の授業や、もっと他分野の授業があってもいいのではないか。
- ・兼修英語の授業をもっと強化してほしい。
- ・学べる言語の種類をふやしてほしい。

⑧授業について

- ・担当の先生同士が、お互いにどんな授業をしているのか知ってほしい。
- ・一貫した内容の授業をしてほしい。
- ・授業によって、開始時刻前に講義が始まったり、逆に15分以上開始が遅れたりすることがある。

⑨資格等について

- ・TOEIC、TOEFL 対策の授業をしてほしい。
- ・教職科目の授業時間がかぶっていたり、履修制限があったりするので、学生によっては免許を取りにくくなっている。
- ・司書教諭関連科目を学部で作ってほしい。

⑩時間割について

- ・1限目は9時（または9時20分）からにしてほしい。
- ・昼休みや5・6限の間の休み時間をもう少し長めにしてほしい。

⑪授業アンケートについて

- ・アンケートの結果が反映されていない。
- ・先生からのコメントを公開すべき。

⑫教室について

- ・教室の割り当てをもう少し考慮してほしい。
- ・ホワイトボードがある教室は、いつもインクが切れかかっていてボードが見にくい。

⑬コンピュータ関係について

- ・自由に使えるPCを増やしてほしい。（CAIのパソコンなど）
- ・機器のメンテナンスをきちんとしてほしい。

⑭学務システムについて

- ・WEBのシラバスを作って、レジュメ、テキストをダウンロードできるようにしてほしい。

⑮学内施設について

- ・クーラーの気温調節をちゃんとしてほしい。
- ・トイレをきれいにしてほしい
- ・更衣室がもう一つ欲しい。

⑯学生生活について

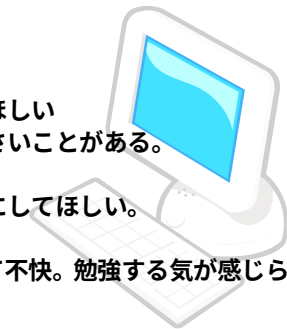
- ・就活や部活の行事の公欠を認めてほしい
- ・授業中に吹奏楽の音が響いてうるさいことがある。

⑰留学について

- ・もう少し学生が留学しやすい制度にしてほしい。

⑱その他

- ・年々学生のマナーが悪くなっていて不快。勉強する気が感じられず、レベル低下が気になる。



8. 教員からのコメント ※その他の教員のコメントは、学内PCからホームページで閲覧できます。

指 昭博 先生（担当科目：歴史学入門（学部）歴史学入門（第2部）図書及び図書館史）

今回、3つの科目がアンケートの対象になりましたが、ほぼどれも同じような評価が出ており、自分の授業の特徴のようなものがよくわかりました。

おおむね、各項目について、平均かそれ以上の評価をもらっているのですが、「自主的な学習努力」「学習を促す工夫」という二項目への評価が辛くなっています。これは、担当する授業のほとんどが講義であり、内容も教科書などのないオリジナルなもので、短時間で予習するのは相当難しいことも一因と思われます。講義の場での「へっ」という驚きを大切にしたいと思っていることが、裏返せば、受講者が常に受け身になってしまう授業形態になってしまっているといえるでしょう。この点、もっと授業の組み立てや参考文献の紹介などを工夫することで改善したいと考えています。

難波江 仁美 先生（担当科目：比較文学特殊講義、専攻英語Ⅴ（1）、専攻英語Ⅵ作文）

評価表を見ることで授業がどのように学生に受け取られているのかがわかり参考になります。学生の視点に立って、何が求められているかを把握すること、そして学生とのコミュニケーションをはかるといった点での工夫が必要であると感じています。

専攻英語は基本的に英語で授業をしています。英語の訓練ができることを評価してくれる学生がいる反面、日本語での説明がないことを不満とする学生もあり、授業の進め方においてさらに工夫が必要であることがわかります。

今年度は比較文学特殊講義の反応がよく、文化的な面での国際交流などへの関心が高いことがわかりうれしく思いました。21世紀を担う学生にとって意味のある問題点を提供することの重要性を再確認しています。

船山 仲他 先生（担当科目：通訳理論演習Ⅰ、オーラル・プレゼンテーションⅠ）

いろいろな要素を授業に取り込んでいるのですが、それらを1回の授業、あるいは学期を通してどのように配分するかが難しいところ。自然なことですが、受講生により関心の対象に違いがありますから、全員を満足させることは無理なのかもしれません。しかし、工夫を続けたいと思っています。シラバスがあまり役に立っていないようですが、これも工夫したいと思います。もっとも、サプライズがあってもいいのではないかとの思いもありますが、どうでしょうか・・・

吉川 朗子 先生（担当科目：専攻英語Ⅰ作文、専攻英語Ⅰ講読[1]、専攻英語Ⅱ講読[3]、翻訳演習）

自分の専門に近いことを教えている授業だと評価が高く、そうでないと評価が低いということを感じます。学生の皆さんにも、大学へ来た以上専門的なことも教えてほしいという希望があるのかもしれませんが、基礎固めを行う科目について、どうしても学生の皆さんに興味を持ってもらえるか、再考の必要があると思いました。

〇〇についてもっと知りたかった、というご意見があるのも専門知識に対する欲求の表れかもしれません。ただこうした要望は学期の終わりのアンケートに書くのではなく、授業の進行中に言ってもらいたかったと、とても残念に思います。そうした「知りたい」という欲求は学問においてはとても大事なことです。知りたいこと、分からないことは積極的に質問する、あるいはどういう資料を読んだらいいのか尋ねてみる、そして理想的には、自分で図書館へ出かけて調べてみるという態度を身につけてほしいと思います。

下地 早智子 先生(担当科目:専攻中国語Ⅰ、専攻中国語Ⅱ文法、専攻中国語Ⅲ講読[4])※コメントは専攻中国語Ⅰに対するものです。
肯定的な評点とコメントを多く寄せて下さり、大変嬉しかったです。どうもありがとうございます。

A クラスからは、ペア練習の時間を長く取ってほしい、もう少し板書して欲しい、小テストの範囲が分かりにくい、という意見が出ました。ペア練習は楽しくて表現が身につくので、長くやってもものたりなく感じるのかもしれませんが、できるだけ時間をとるようにします。口頭練習が多いと板書の時間がなくな

ってしまうのですが、バランス良く配分するように努めますね。小テストの範囲もきちんとお互いに確認してから講義を終了するようにします。

B クラスからはシャドウイングをもっとやりたい、机を公平にして欲しい、という意見が出ました。これは教室の形態からものともなご意見だと思います。定期的に席替えをすることで不公平感をなくしていくようにします。

では、後期もよろしくお願いします。



2009 年度「教員と学生による授業に関する座談会」

2009 授業評価アンケートの結果をうけて、アンケートに書かれている内容について学生から具体的な意見や生の声を聞くために、11月18日(水)に、各学科の学生と本学の教員による座談会を実施しました。今回その一部について紹介いたします。(発言内容について、一部抜粋しています。全文は学内 PC からホームページで閲覧できます。)

1. 授業について

C さん: ネイティブの先生の授業で、会話の授業なのに途中から作文になったり、逆に作文の授業が会話になったりすることがあり、1 年やって結局何の授業かわからなくなる。先生は色々教えてあげたいという考えでやっているのかもしれないが。

教員: ネイティブの先生の場合が多いですか。直接先生に言ったことは?

B さん: 作文のクラスは 50 人位いるので、先生が学生全部を見られないので、そうなるのかも思えるので言いにくい。

教員: 大学としてネイティブの会話・作文クラスは少人数化しているが、3 年生なのでまだなっていないせいもあるかも。なかなか理想通りにはいかない。ただ語学の会話や作文のクラスで 50 人は多すぎると思います。

教員: ネイティブの先生は色々できるので逆に色々教えてしまうのかも。それがいい場合もあるけど。

C さん: 他の先生から聞いたことをまた違う先生から同じことを聞くことになる。

教員: 初習語学の場合、体系的に学習する必要がある。学科でカリキュラムをちゃんと組んでいかないといけない。

教員: 3 年生でもそんな繰り返しがありますか?

C さん: 1 年生でやった文法を 3 年生でする先生もいる。

教員: 先生も善意で丁寧にやったつもりが結果的には繰り返しになっている場合もある。

2. 単位取得制限について

F さん: 学部、2 部間の単位取得制限をなくして欲しい。もう 32 単位ぐらいとっているので来年取りたい授業がとれない。6、7 時限に受けたい授業が少ない。6、7 限目の科目の幅を広げてほしい。教職をとる学生はぎりぎり。

教員: その不満はよく聞きます。ただ仕事を持っていて夜しか来られない人と差をもうけすぎるのは良くないと考えています。土曜日開講も案として持っていますが、2 部の人にアンケートを取ると望まない人が多い。土曜日開講についてはどう思いますか?

F さん: 土曜日開講しても、土曜日に受けたい授業がないと意味がないし、部活もあるので反対です。

教員: 大学としては昼の授業を取れない社会人の人に不満が生じないように考えるのが第一で、その学生に履修の機会を与える必要があると考えています。2 部を 1 日 3 コマ制にするとか、色々な案を検討しているが、昔は学部も 2 部も土曜日も授業があった。そんな昔ではないです。昼の授業に来られない人にチャンスをおけないといけないと思います。夜の科目にバラエティをもた

せることが原則で、少しずつ変えてきてはいますが。急な変更は難しいですね。

教員: 学部と 2 部の授業の受講について、例えば単位が認められない授業の受講は考えられないのか? 単位が取れないと受講しない?

A さん: 例えば木曜 6 限目の「パブリックスピーチ」は学部生の単位が認められないが、単位に関係なく受講したい。

F さん: どちらの場合もある。社会人になって必要と思うような授業などは単位と関係なく聞きたい。

教員: 単位が認められたらなおいいですね

3. 授業評価アンケートについて

C さん: アンケートが反映されているか身をもって感じたことはないが、アンケートすることはいいことだと思う。ただアンケートを回収する時、中を見ている先生がいる。

教員: 先生には(アンケートを)見ないように伝えていますが、ちょっと見てしまう先生がいるようです。引き続き注意していきます。

D さん: あまりアンケートが反映されている気がしない。あと、ネイティブの先生への自由意見は何語で書けばいいのかわからないので悩みます。

事務局: 自由意見は、そのままデータ入力して先生に渡しますので、日本語でも母語でも結構です。

E さん: (アンケートが) 反映されている実感はない。

F さん: 先生によってはちゃんと昨年アンケートではこうだったので、今年はこうしますと言ってくれる先生もいるが、先生によって違う。

教員: ホームページの授業評価に対する先生のコメントは見ていますか?

学生一同: 知りません。

教員: GAIDAI NEWS とホームページに授業評価アンケートの概要を掲載していますが、そこまで見てくれる場合が少ないかな。

教員: 学内の掲示板でどこに載っているという方がいいかも。

D さん: GAIDAI NEWS はあれば必ず見っていますが、無くなっている場合も時々ある。学館以外にも色々な場所においていただければいい。

事務局: GAIDAI NEWS は学館以外にも図書館、キャリアサポートセンター前にも置いていますのでぜひ活用してください。

